

第2次
滝川市環境基本計画・地域行動計画

年 次 報 告 書
(令和元年度版)

滝 川 市

◇第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画 年次報告書とは…

滝川市では「第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画」（以下「環境基本計画」という。）という環境に関する計画を平成28年3月に策定しました。環境基本計画では、滝川市が環境においてどのような取組を行っているか、また、実際にどこまで成果が上がっているのかなどを、毎年、検証することにも取り決めています。この報告書はその一環として前年度の状況などをとりまとめて、皆さんにご報告するためのものです。

「第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画」とは

目指すべき環境の姿を実現するため、次のとおり基本目標を掲げ、この基本目標を達成するため、環境を構成する4つの分野のそれぞれに基本目標を定めます。

基本目標

豊かな環境を1人ひとりが守り育む
『環（わ）のまち』たきかわ

目標1 生活環境

環境にやさしく資源を有効に活用する循環型社会を目指すまち

目標2 地球環境

エネルギーを大切に、環境への負荷の少ないまち

目標3 自然環境・農業

身近な自然と触れ合うことでその大切さや素晴らしさを実感できるまち

目標4 環境コミュニティ

みんなが学び、共有することによる環境保全の環（わ）が広がるまち

計画では令和7年度までに、次のとおり具体的な数値目標を設定しています。

項 目	目標値	備 考
市民1人・1日当たりのごみ排出量(家庭系ごみ) ※資源ごみは除く	500g	—
リサイクル率	25.0%	—
省エネモニターのCO2 排出量	年平均1%減	—
滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量	4,250kg	—
エコネット登録団体の自然保護活動参加人数	8,700人	—
農業体験授業(事業)実施校数	150校	—
環境学習リーダー養成講座の受講者数	350人	第1次計画175名からの累計
環境市民大会における参加者の平均評価点	85点以上	—

(1) 生活環境（身近な問題）

1 令和元年度における数値目標の達成状況について

市民1人・1日当たりのごみ排出量（家庭系）

目標値（令和7年度時点）	500 g / 人・日
実績値（令和元年度）	560 g / 人・日

リサイクル率

目標値（令和7年度時点）	25.0%
実績値（令和元年度）	21.2%



令和元年度の評価

昨年度に比べて市民1人・1日当たりのごみ排出量は減少し、リサイクル率は増加しました。引き続き、市民運動「エコたき」を推進して行くとともに、市内全世帯に配布した「ごみ分別ガイド」や広報での周知などを確認してもらい、市民間のごみ減量化とリサイクル意識の向上をめざします。

区分		単位	元年度	30年度
収集人口 ①		人	39,414	39,997
収集世帯		世帯	21,189	21,365
家庭系	生ごみ	t	1,585	1,638
	燃やせるごみ	t	5,189	5,282
	燃やせないごみ	t	466	528
	粗大ごみ	t	842	1,010
	資源ごみ	t	603	658
	計 ②	t	8,685	9,116
事業系	生ごみ	t	1,491	1,676
	燃やせるごみ	t	2,363	2,618
	燃やせないごみ	t	89	93
	粗大ごみ	t	152	261
	資源ごみ	t	64	64
	計 ③	t	4,159	4,712
資源化量 (資源回収以外)	燃やせないごみ・粗大ごみより回収	t	486	492
	生ごみより回収 ※H29年度から生ごみからのバイオガス分を追加	t	449	470
	資源ごみより回収	t	640	694
	計 ④	t	1,575	1,656
資源回収	拠点回収	t	78	60
	集団資源回収	t	1,374	1,433
	資源回収の合計 ⑤	t	1,452	1,493
合計 ⑥ (②+③+⑤)		t	14,296	15,321
埋立処分量		t	864	1,272
●リサイクル率 (④+⑤) / ⑥		%	21.2	20.6
●市民1人・1日当たりのごみ排出量 (家庭系※1)		g	560	579

※1 資源ごみ及び資源回収除く

2 令和元年度における主な取組について

(1) 市民運動エコライフたきかわ（＝エコたき）の推進

滝川市では、新しい市民運動として、平成 28 年度からいつでも、どこでも、だれでも簡単にできる「人」と「地球環境」にやさしい行動「エコたき」を推進しています。

令和元年度は「エコたき」の基本となる「エコたき 4 か条」の「コ（ゴミを減らして快適ライフ）」を重点的な普及目標とし、専任講師から特別な指導を受けた高校生や短大生が、保育所、小学校、こども科学館で子ども達に「日常の『もったいない』から考える地球温暖化」、捨てるものを有効活用した工作教室「捨てずに上手にリサイクル」などの環境教室を実施しました。



(2) 集団資源回収事業

町内会をはじめとした各種団体において、資源の回収を奨励し、回収された資源の量に応じて、奨励金を交付するものです。

実施団体数 延べ 308 団体（前期 152 団体、後期 156 団体）

奨励金交付額 275 万円（前期 140 万円、後期 135 万円）

単位：t

		元年度	30 年度
区分	紙パック	X	1
	紙 類	1, 064	1, 125
	びん類	136	136
	金属類 (スチール缶、アルミ缶、その他金属)	94	88
	ペットボトル	79	81
	その他	X	1
	計	1, 374	1, 431

※四捨五入等の関係で計は一致しない。

(3) カレンダーリサイクル事業

年末年始に個人や事業所等で受け取るカレンダーや手帳などのうち、自ら使用する見込みのないものを提供していただき、それらを滝川市役所にて展示し、希望者に対してその場でお渡ししました。期間中（第 1 次／12 月 26 日、第 2 次(図書館)／12 月 27 日～1 月 22 日）にカレンダー 2,077 点、手帳 105 点が新たな持ち主に引き取られ有効活用が図られました。



- (4) 滝川市リサイクルフェアの開催
市内でも屈指の規模のフリーマーケットである滝川市リサイクルフェアは、今回も空知自動車学校のご協力をいただき、同校教習コースで開催の「WaiWai フェスタ」と合同イベントとして実施しました。

実施日 令和元年9月14日
出店数 60店
来場者数 2,500名（自動車学校発表）



- (5) リユースショップ情報発信事業

資源の有効利用やごみ減量推進の一環として、製品等の再利用（リユース）の円滑化を図るべく、市内で古物商を営む事業者店舗の情報を集約し「滝川市リユースショップ一覧表」として情報提供を行いました。

情報発信依頼店舗数：7店舗

- (6) 古着・古繊維の拠点回収について

ごみ減量やリサイクル率の向上を目的として、家庭で不要となった古着・古繊維の拠点回収を滝川市役所や旧粗大ごみ処理センター(中島町210)、江部乙支所で行いました。令和元年度の回収量は約6tで、前年度より約1t減となりました。

- (7) 小型電子・電気機器の拠点回収について

ごみ減量やリサイクル率の向上を目的として、家庭で不要となった小型電子・電気機器の拠点回収を滝川市役所と江部乙支所、まちづくりセンターで行いました。令和元年度の回収量は約27tで、前年度より約2t減となりました。

- (8) 雑がみの回収について

燃やせるごみの削減及び資源循環促進の一助として平成26年4月から、新たに「雑がみ」を資源ごみに加えました。令和元年度の回収量は14tで、前年度より約7t減となりました。

- (9) 滝川市フリーマーケット情報交流事業

滝川市内で開催されるフリーマーケットの情報を滝川市公式ホームページや電子メールを通じてPRし、フリーマーケットの活性化を支援する取組です。電子メールでの情報は市内外を問わずあらかじめアドレスを登録していただいた方に対して随時、送信しました。

発信したフリーマーケット開催情報の件数：2件

- (10) たきかわクリーンデーの実施

清掃による環境美化のみならず、清掃活動を通じた環境保全への意識高揚が期待される全市一斉清掃「たきかわクリーンデー」を町内会・学校・事業所など多くの市民の皆様にご協力いただき、春・秋の年2回実施しました。

	実施期間	参加団体数等	参加人数
春	4月13日～5月19日	144団体 (町内会：125、事業所：4、団体9、学校：6) ボランティア袋配布数：40リットル／2,435袋	5,829人

		20 リットル／1,690 袋	
秋	9 月 21 日～10 月 27 日	69 団体 (町内会：58、事業所：4、団体：2、学校：5) ボランティア袋配布数：40 リットル／1,115 袋 20 リットル／ 570 袋	2,981 人

(11) 滝川市（公用）ボランティア袋の配布

まちの美化は、住民と行政が互いに協力し合って取り組むテーマであり、多くの人々が利用する道路や公共施設がきれいになっていることは、「心地よさ」とともに地域や市全体の「誇り」です。

きれいなまちで暮らすため、道路、公園、河川、公共施設などの清掃・美化にご協力いただける団体・個人の皆様に、滝川市では無料でボランティア袋の配布を行っています。なお、クリーンデーに参加される方にも配布しています。

※令和元年度は、3,814 枚（40 リットル／2,598 枚、20 リットル／1,216 枚）を配布。

(2) 地球環境（地球全体の問題）

1 令和元年度における数値目標の達成状況について

省エネモニターのCO2排出量

目標値 年平均1%削減

実績値（令和元年度）

前年比 2.84% 減

滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量

目標値 原単位で年平均1%削減

実績値（令和元年度）4,387kl

※前年比 97.6%

※原単位とは施設の延べ床面積あたり



令和元年度の評価

環境省の補助事業を活用し、2030年度まで日本政府が進める国民運動「COOL CHOICE（＝賢い選択）」と市民運動「エコたき」をキーワードにした「COOL CHOICEでエコたき」を柱とした普及啓発事業を行い、市民や事業者に省エネルギーやゴミ削減を主としたCO2削減活動に努めるよう周知しました。今後も、地球温暖化防止の普及啓発事業を継続して行うほか、ホームページや新聞などを通して、年々深刻化する地球温暖化の現状を知ってもらい、市民が温暖化防止に向けて、市民自ら考え・行動できるような呼びかけを行っていきます。

(1) 省エネモニターの実施

内容：各家庭の生活の中でエネルギー消費を意識し、効果的な省エネルギーにどのように取り組むべきかを考えていただけるよう、一般市民を対象に省エネモニターを実施しました。

参加世帯数：17 世帯

モニター対象期間：令和元年8月分

～令和2年2月分

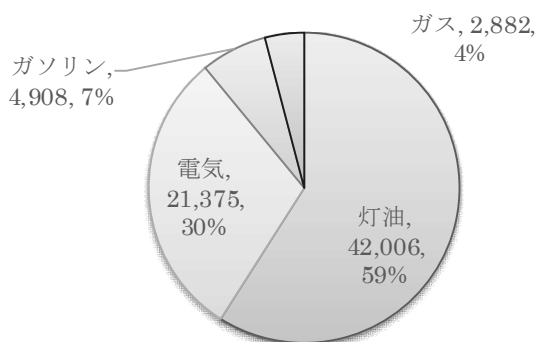
対象エネルギー：電気、ガス、灯油、ガソリン



※モニターとして参加した方には、環境省や北海道が発行している「省エネ」に役立つパンフレットを配布しました。

モニター世帯における二酸化炭素排出量

二酸化炭素排出源の構成割合



★二酸化炭素排出量算出方法

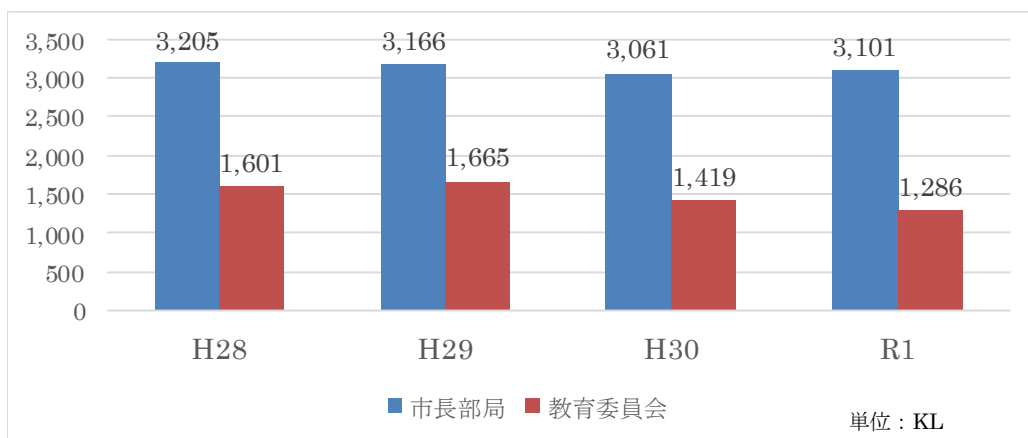
17世帯の使用量の合算を環境省が定めるCO2排出量の計算式にあてはめ算出しています。

灯油	16,870 (L)	× 2.49	= 42,006kg
ガス	483 (m³)	× 5.97	= 2,883kg
電気	31,388 (kWh)	× 0.681	= 21,375kg
ガソリン	2,115 (L)	× 2.32	= 4,906kg

(2) 滝川市の公共施設におけるエネルギー消費量について

滝川市が管理する公共施設全体で令和元年度 1 年間に消費したエネルギー量は、原油量に換算すると 4,387 キロリットルになりました。

滝川市の公共施設エネルギー消費量（1 年間に消費したエネルギー量を原油量に換算）



(3) 二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金を活用した事業の実施について

平成 28 年度から二酸化炭素排出抑制対策の一環として、環境省の標記補助金を活用し、地域の将来を担う若者たちへの環境教育を主題とした事業を、市内教育機関や企業と連携して実施しました。

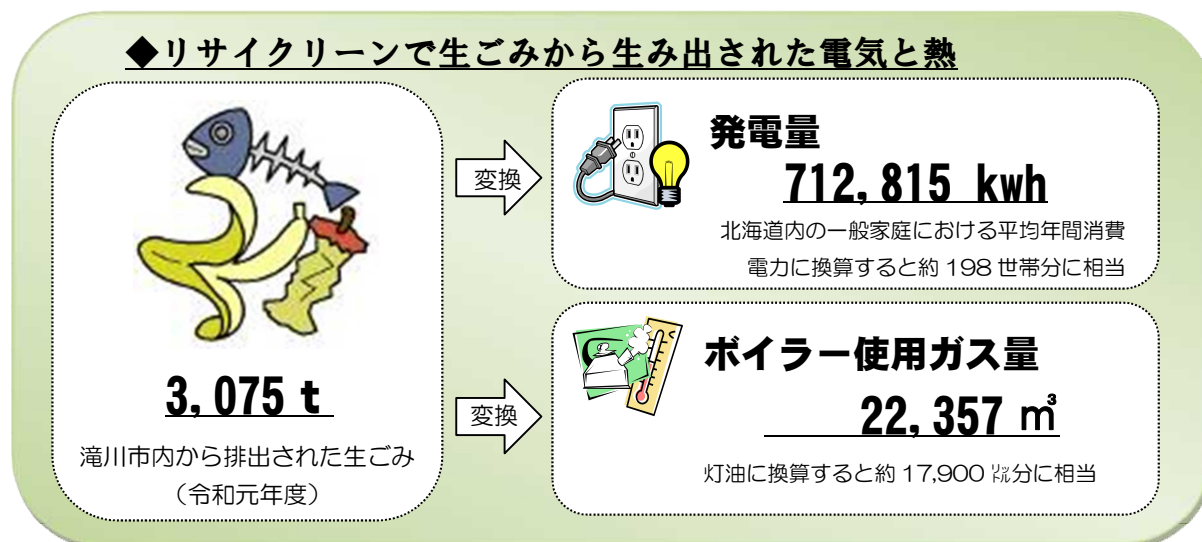
主な実施内容は以下のとおりです。

実施内容	備考
空知自動車学園を連携したエコドライブ講習会・エコドライブメールマガジンの配信	卒業講習会 311 名 高齢者講習会 985 名 メールマガジン 14 回（うち 6 回はオリジナル動画を配信）
自動車学校と連携したイベント「そらち WaiWai フェスタ&滝川市リサイクルフェア」でのエコカー展示とエコドライブシュミレーターによるエコドライブ体験ブースの出展	来場者数：2,500 名
北海道環境財団による高校生を対象とした環境学習リーダー養成講座	
環境学習リーダーによる保育所児童への環境教育の実施	
地球温暖化防止活動普及大使養成講座	
地球温暖化防止活動普及大使による小学校での環境教育の実施	2 校 106 名
環境シンポジウム in 滝川市立開西中学校	150 名
環境市民大会「環境シンポジウム in 滝川高校」	来場者数 514 名
STOP 地球温暖化！！COOL CHOICE から学ぶ環境教室 in 開西中学校	150 名
「COOL CHOICE でエコドライブ啓発ぬり絵&クールビズ／ウォームビズ啓発展示」	
地球温暖化防止活動普及大使による消費者まつりでの「COOL CHOICE 啓発ブース」出展	
「COOL CHOICE でエコたき」ステッカー制作と広告掲出	・市内線バス 20 台・タクシー 3 社 75 台 ・公共施設 30 か所・公用車 5 台

(4) バイオマスのエネルギー利用

① 生ごみのエネルギー利用

東滝川にある中空知衛生施設組合リサイクリーン（滝川市のほか赤平市、芦別市、雨竜町、新十津川町と共同運営）では、各市町で分別回収された生ごみ（一般廃棄物）から、メタンガスというエネルギーを取り出しています。メタンガスは発電機やボイラーの燃料として供給され、電気や熱に変換され施設運営等に活用されています。



※それぞれ、施設全体の発電量及びボイラー使用ガス量に滝川市の生ごみ排出割合(61.2%)を乗じた値です。

② 下水道汚泥のエネルギー利用

滝川市の下水道は石狩川流域下水道(北海道及び6市4町により運営)に接続されており、奈井江町内にある下水道処理施設(奈井江管理センター)に送られ浄化されます。

そこでは、浄化処理の過程で有機物からメタンガスを取り出し、生ごみ処理と同様、得られたガスを電気や熱に変換して利用しています。

	施設全体	滝川市分
I 汚泥処理量 (t)	2,860	1,190
II 消化ガス発生量 (m³)	1,425,000	594,680
III 消化ガス使用量 (m³) →消化ガス発電等として利用	1,152,000	480,750
IV 発電量(kWh)	1,146,000	478,240

※発電量：北海道内の一般家庭における平均年間消費電力に換算すると約 133 世帯分に相当

※Ⅱ～Ⅳの滝川市分は下水処理量の割合から按分した値です。

③ 可燃ごみ焼却によるエネルギー利用

滝川市の可燃ごみは、中・北空知廃棄物処理広域連合（5市9町により組織）が設置、管理及び運営している歌志内市にある一般廃棄物焼却処理施設（中・北空知エネクリーン）に搬入、処理されます。施設はエネルギー回収推進施設として、ごみを焼却したときに出る熱を利用して蒸気タービンで発電しています。発電した電気は、施設内で使われ、余った電気は売却し、有効活用しています。

	施設全体	滝川市分
I 可燃ごみ搬入量 (t)	23,598	8,560
II 可燃ごみ焼却量 (t)	22,647	8,215
III 発電量 (kWh) →売電 (kWh)	11,332,880 →6,767,729	4,110,918 →2,454,944

※発電量：北海道内の一般家庭における平均年間消費電力に換算すると約 1,141 世帯分に相当

※Ⅱ・Ⅲの滝川市分は、Ⅰの割合から按分した値です。

(5) 市内公共施設における太陽光発電設備のデータの公表

平成 22 年度に設置した滝川市役所庁舎壁面の太陽光発電設備のほか、滝川市内の公共施設（北海道滝川高等学校、札幌地方検察庁滝川支部、滝川第三小学校、滝川ふれ愛の里）に設置されている太陽光発電システムの発電量も集計し、滝川市公式ホームページにおいて公表しています。

各施設における発電量について

i) 滝川市役所



- ・出力：5 kW
- ・角度：90°
- ・年間発電量：3,809.1kWh
- ・設置年月日：平成 22 年 12 月

ii) 北海道滝川高等学校



- ・出力：20kW
- ・角度：50°
- ・年間発電量：23,312.6kWh
- ・設置年月日：平成 22 年 12 月

iii) 札幌地方検察庁滝川支部



- ・出力：5 kW
- ・角度：45°
- ・年間発電量：6,050.4kWh
- ・設置年月日：平成 22 年 7 月

iv) 滝川第三小学校



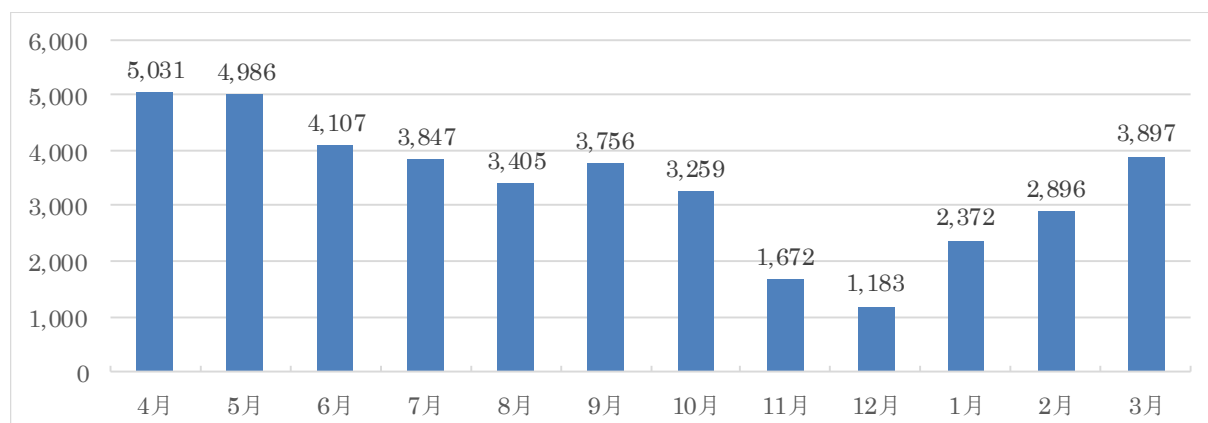
- ・出力：10kW
- ・角度：90°
- ・年間発電量：10,030.8kWh
- ・設置年月日：平成 27 年 3 月

v) 滝川ふれ愛の里



- ・出力：12kW
- ・角度：45°
- ・年間発電量：12,888.91kWh
- ・設置年月日：平成 27 年 4 月

令和元年度 月別発電量



※発電量合計は、集計機器トラブルや雪害等の影響で全ての施設の数値が反映されていません。

(6) 町内会街路灯切替促進補助金

町内会等が維持・管理する街路灯を LED に切替促進促進するための補助金を支出しました。

令和元年度実績：438 灯

※街路灯の LED 化率 70.4% (LED：4,146 灯、LED 以外：1,744 灯 合計 5,890 灯)

(7) 市内コミュニティセンター等の照明を LED へ切替しました。

コミュニティセンタ名	場所	切替数
三世代交流センター北地区分館	事務室	4 基
西地区コミュニティセンター	1 階ホール	6 基
北地区コミュニティセンター	会議室	8 基
中地区コミュニティセンター	事務室	3 基
緑地区コミュニティセンター	1 階ホール	6 基
	会議室	6 基

(3) 自然環境・農業（自然・農業の保全）

1 令和元年度における数値目標の達成状況について

エコネット登録団体の自然保護活動参加人数

目標値（平成 28 年度～令和 7 年度累計） 8,700 人

実績値（平成 28～令和元年度累計） 7,080 人

○NPO 法人まち・川づくりサポートセンター

・石狩川クリーンアップ作戦／100 名

・みんとち自然体験楽校／96 名

・WET プログラム／3,483 名

○江部乙丘陵地のファンクラブ

・フットパス参加者／97 名

○滝川おもしろ食育塾（農業体験）

・青年期食育教室／167 名



令和元年度の評価

「たきかわエコネット」の新規登録団体増加並びに既存団体への自然保護活動実施の呼びかけや支援、農業体験の実施などについては、生き物や自然の大切さを知り、限りある資源に感謝する心を育てるために必要不可欠なものです。今後も、民間団体や教育機関、各所管との相互協力を進めながら、それぞれの拡大に向けて継続的に取り組んで行きます。

農業体験授業（事業）実施校数

目標値（平成 28 年度～令和 7 年度累計） 150 校

実績値（平成 28～令和元年度累計） 60 校

○令和元年度の実施校 17 校（順不同）

滝川幼稚園、白樺幼稚園、一の坂保育所、江部乙保育所、花月保育所、中央保育所、二の坂保育所、第一小学校、第二小学校、第三小学校、東小学校、西小学校、江部乙小学校、明苑中学校、江陵中学校、江部乙中学校、國學院大學北海道短期大学部

2 令和元年度の主な取組等について

(1) 地域農業の振興と住民等との交流促進のための取組

①そらちワイン×ワイン Festa

開催日 令和元年 8 月 31 日

場 所 滝川市保健センター横特設会場

来場者 1,000 名

内 容 空知管内のワイナリー・ヴィンヤードが出荷している 18 種類のワインや滝川産クラフトビールを販売したほか、生産者、ソムリエによる滝川産ブドウを使用したワインの紹介や音楽ライブ、抽選会等のステージイベントを実施し、来場されたお客様に空知産ワインと空知の食の魅力を発信しました。



②「滝川おもしろ食育塾」による取組

開催日 令和元年 6 月 5 日～12 月 18 日

対 象 國學院大學北海道短期大学部幼児・児童 児童教育コース 2 年

たきかわエコネット

内 容 稲作体験（田植え、生き物観察、稲刈り・はさがけ、脱穀）
調理実習（収穫祭）など
参加人数 延べ167人(全5回)

③農業体験の推進

グリーンツーリズムに係る取組

「そらちDEい〜ね」を介した受入事業

時 期 令和元年6月6日～令和元年10月2日

参加人数 9校86人

受入農家 延べ22戸

(2) 自然とふれあいの取組

たきかわエコネット

「たきかわ環境フォーラム」による取組

■エコカフェの開催（令和元年8月24日（土）～令和元年2月24日（日）（全2回））

※テーマに沿って講師を中心に身近な環境問題について語り合う集いです。

事業名概要	講 師
①「漢方薬創 その魅力を語る」 開催日：令和元年8月24日（土） 場所：まちづくりセンター「みんくる」	菊地 原氏 夕張ツムラ
②ドキュメンタリー映画「とりもどす」 開催日：令和2年2月24日（月・祝） 場所：まちづくりセンター「みんくる」	藤野 智明氏 （同映画監督）

■平成28年度より、滝川市南東部の石狩川水系空知川においてCOD（化学的酸素要求量）値を測定するために行っていた「身近な水環境の全国一斉調査」への参加は、滝川高等学校科学部へ引き継ぎました。

(3) 川との共生に向けた取組

たきかわエコネット

「NPO まち・川づくりサポートセンター」による取組

◆みんとち自然体験楽校（団体） ※みんとち=アイヌ語でカップの意味

1年を通じて石狩川の自然を体験してもらうため、春・夏・秋・冬の4つのコースを計画し、石狩川から学ぶ自然体験活動を通して、自然からの発見と体験の面白さを直接経験する内容を計画しました。また、活動を通して仲間との協力や異年齢との人間関係を学び、社会性や郷土愛が育まれることも期待できます。

（滝川市内の小学校3年～6年生を対象として参加者を募集）

①春コース みんとちのひみつ

開 催 日 令和元年6月9日

参加人数 23名

内 容 石狩川周辺の春の自然観察を行った。天候に恵まれ「石狩川再生の森」までの植物や野鳥の観察をしたり、笹船やお面作りなど草花遊びを楽しんだ。

参加者は、五感をフル活用し、発見する楽しさを味わった。



②夏コース みんなの冒険

開催日 令和元年7月27日～28日

参加人数 27名

内容 前日の雨のため石狩川が増水し、近寄ることも危険な状態だったため、ラウネ川で活動を行った。強風の中、ラウネ川の端を目指して力を合わせてEボートを漕いだり、普段は入れない排水機場の水路で川流れを行った。



子供たちは、普段とは違う川の様子を目前にし、災害（水害）の恐ろしさも実感。川と暮らすことや、防災の基礎知識も学んだ。夜は段ボールを利用した防災キャンプを行い、非常食を食べ、避難所生活の疑似体験をした。

2日目は、白地図に色を付けて自分の住んでいる地域の特色を知ることや災害を想定した図上訓練を行った。

2日間の体験を通して、身近な川と災害・川の危険性、川の環境保全、川遊びの楽しさなど、楽しさと危険性の両面について意識を高めることができた。

③秋コース みんなの知恵

開催日 令和元年9月22日

参加人数 20名

内容 サケの遡上や自然産卵の観察を通して、環境の変化や動植物とのつながりについて興味や関心を持つことをねらいに行った。



また、秋の実りを生活に生かす自然物を活用した創作活動を行ったり、夏コースで実施できなかった魚すくいや滝川産リンゴの味比べなど秋の自然を五感で体験した。

④冬コース みんなのかくれ家

開催日 令和2年2月2日

参加人数 26名

内容 冬の石狩川周辺の自然を観察し、水の変化や北海道ならではの雪に親しむ活動を行った。



イグルー制作では、今年は降雪量が少なく、雪を踏み固めてブロックを切り出す方法は困難なため、湿らせた雪を型に入れてブロックを作り積上げる方法で行った。午後は、スノーシューで雪原を歩いたり、動物の足跡をたどったり、冬芽を観察したり、雪に閉ざされていても、生物は春の準備をしていることや生命を維持していることなどを体験的に学んだ。

◆「滝川地区地域防災施設（川の科学館）」来館者への普及活動

●来館者：4,351人

◆滝川地区地域防災施設を活用した環境・防災の学習

●プロジェクト WET

※ プロジェクトWET (Water Education for Teachers)とは・・・
世界 66 以上の国と地域で活用されている水教育プログラム「プロジェクト WET (Water Education for Teachers)」は、子どもたちが主体的・対話的で深い学びが得られるように開発され、アクティブ・ラーニングの視点と合致するツールです。

(出典：公益財団法人河川財団プロジェクト WET ジャパン)

①流水実験

実験装置で流れる水の働き（浸食・運搬・堆積）を観察し、狭い川と広い川の水の比較、流れる水の働きによる地形の変化を分かりやすく説明した。

また、水量が増える原因やその結果についても考えさせ、気象や地形、川との暮らしや災害との関連についても気づいたり考えたりできるようにした(参加人数 874 名)。



②自然再生ジオラマ

石狩川は、長さ日本第3位の一級河川である。実験装置で蛇行している川と治水により直線になった川の違いを目で確かめることにより、流速や低地の様子、川の役割などを学年に応じて分かりやすく説明した。また、石狩川とともに人々の暮らしや産業が発展したことにも気づかせた(参加人数 874 名)。



③水の環境学習

地球上を取り巻く水や地球環境について体験的に学ぶ活動として、「驚異の旅」「水リンピック」「水のババ抜き」「青い惑星」など手軽に出来るアクティビティを行った(参加人数 1,264 名)。



④石狩川 1/1000 模型で調べよう(リバーワーク)

神居古潭から石狩湾までの流域で合流する河川名、市町村名、ショートカットによりできた三日月湖を調べたり、石狩川の中流域の様子や滝川市の近隣市町の様子を模型の川を歩きながら確認したり水と触れ合った。(参加人数 222 名)



⑤川から自然環境を考える活動（川下り）

川から見る自然を体験してもらうため、Eボート（10人乗りのゴムボート）による川下りを実施した。石狩川や支流の空知川下りを通して、参加者それぞれが河川環境や文化・歴史・暮らし、災害・減災・防災などについて気づいたり考えたりしてもらった。

参加者は、川底の太い流木や川岸の漂流物、浮遊するプラスチックゴミなどを目の当たりにし、流域全体で環境を考えることが大切であることなどに関心を寄せていた。

また、空知川では、今では採炭されなくなった石炭の大露頭を川から見ることができ、地域の産業遺産にも関心を持っていた。（参加人数 230 名）



⑥人材の育成

川や自然体験を普及するため、「WET（water education for teachers）エドゥケーター講習会」を開催した。参加者は、國學院大學北海道短期大学の学生や空知管内の教員を対象に行った。教職を目指す大学生には、講習会終了後、ボランティアで活動の機械を提供した。（参加人数 19 名）



●環境美化活動

石狩川クリーンアップ作戦

開催日 令和元年5月26日

参加人数 10団体約100名

内容 私たちの暮らすまちや川をきれいにし、豊かで過ごしやすい空間になるように、河川愛護団体や町内会、ボランティア等の団体に呼び掛けて、石狩川やラウネ川周辺のゴミ拾いを行った。年々、ゴミの量は減ってきている。



(4) 森との共生に向けた取組

「江部乙丘陵地のファンクラブ」による取組

■フットパス事業（全6回）

開催日 令和元年5月26日～
令和2年1月26日

内容 江部乙丘陵地を歩いて、
自然観察等を行った。

参加人数 延べ97人

たきかわエコネット



■野鳥の会滝川支部

定期的に野鳥や自然の観察会を実施。詳細は野鳥の会のホームページを参照。

(5) そのほか、たきかわエコネット登録団体の取組

■滝川消費者協会の取組

第45回滝川消費者まつり

開催日 令和元年10月5日

内容 環境ブースの出展、地産野菜の無料配布、リメイクファッションショーなどを実施した。

地球温暖化防止活動普及大使として活動する國學院大學北海道短期大学部の学生による環境ブースの出展、北海道滝川高等学校に通う学生ボランティアの参加など若者から高齢者まで幅広い世代の市民が参加した。

来場者数 330人

たきかわエコネット



○民間団体の活動のピックアップについて

「NPO法人まち・川づくりサポートセンター」、「たきかわ環境フォーラム」、「江部乙丘陵地のファンクラブ」、「滝川消費者協会」は、市内で活動する民間団体として、それぞれユニークな取組を展開しており、『自然環境・農業（自然・農業の保全）』、『環境コミュニティ（人とのつながり）』で特に取り上げさせていただきました。それぞれの団体につきましては、たきかわエコネット(P21 参照)にも記載されていますので、そちらもご覧ください。

なお、民間団体の取組については、今後も積極的にピックアップしていきたいと考えていますので、まずは「たきかわエコネット」へのご登録をお願いします。

(4) 環境コミュニティ

令和元年度における数値目標の達成状況について

環境学習リーダー養成講座受講者数

目標値（平成 18 年度～37 年度累計）	350 人
実績値（令和元年度累計）	316 人
	（うち令和元年度 37 人）

環境市民大会※における参加者の平均評価点

目標値	85 点以上
実績値（令和元年度）	90.7 点

※環境市民大会は、環境に関する市民からの意見等を聴取する場として市が毎年度開催することとしています。

令和元年度の評価

先生役となる高校生や短大生などの若い世代が、環境保全に取り組むことで、地域住民の関心を高め、市民が自らの行動を振り返り、個々の意識向上に繋げることが期待できます。さらに、環境学習リーダーとなる若者自身も様々な人との関わり、また人に教える経験を通して、環境に関する知識を深めるとともに、協調性や自主・自立性を養い、将来の地域づくりを担う人材に成長する貴重な場になっています。

今後も市内の教育機関や環境団体等と連携し、多くの市民が環境問題について考える機会を提供していきます。



2 令和元年度の主な取組等について

(1) (公財) 北海道環境財団による高校生を対象とした環境学習リーダー養成講座の実施

次世代を担う高校生が専門的な講座受講や子ども達に教えるという活動を通して、高校生自身も自らの行動を振り返り、自分自身で考え、人と地球に優しい行動ができるようになることを目的に実施しました。

文部科学省からスーパー・サイエンス・ハイスクールに認定されている北海道滝川高等学校理数科 1 年生 31 名が、北海道環境財団が実施する専門的な環境講座を受講し、子ども達が環境教育を実施する際に必要なノウハウを学んだほか、講座の受講を通して、高校生自身が普段の生活を振り返り、「人」と「地球環境」について再度考え、責任ある行動がとれる人材を育成する場として活用しました。

◆養成講座実施期間 令和元年 10 月 2 日（水）～12 月 11 日（水）

(2) 地球温暖化防止活動普及大使

國學院大學北海道短期大学部で小学校教員を目指し、教職課程を履修する学生を「地球温暖化防止活動普及大使」として養成。普及大使には専門的な知識が必要となるため、環境教育に長年携わる北海道環境財団に指導・助言を仰ぎ、地球温暖化問題や国民運動「COOL CHOICE」の背景等の基礎的な情報、民生・家庭部門における取組推進における考え方等、基盤的な知見や伝え方のノウハウなど同財団が保有するオリジナルプログラムを学んでもらいました。

◆地球温暖化防止活動普及大使による環境教室

①滝川市立第一小学校 5年生児童 40名対象

令和元年 11月 17日

②滝川市立東小学校 5年生児童 66名対象

令和元年 12月 4日

③環境屋台ワークショップ

in こども科学館（高大連携事業） 80名

令和元年 12月 10日

主 催 滝川市

共 催 國學院大學北海道短期大学部

内 容 「地球温暖化防止活動普及大使」である國學院大學北海道短期大学部幼児・児童教育学科児童教育コース2年生6名が、市内保育所並びに小学校において、「COOL CHOICE とは何か」や「地球温暖化の現状とその防止対策」についての環境教育を行い、子ども達が地球温暖化の現状に興味・関心を持つきっかけづくりをしました。

短大生が環境教育を行うことで、次世代の「普及大使」の育成に貢献するとともに、異年齢交流を推進し、地域における環境コミュニティの創造・拡大を図りました。



(3)環境シンポジウム in 滝川市立開西中学校

開 催 日 令和元年 11月 8日

場 所 滝川市立開西中学校

参 加 者 150名

演 題 「落語で学ぼう ゴミ問題と地球温暖化」

講 師 桂 三段 氏

(4)環境市民大会「高校生環境シンポジウム in 滝川高校」

主 催 滝川市

共 催 北海道滝川高等学校

開 催 日 令和元年 11月 9日

場 所 北海道滝川高等学校 体育館

人 数：514 名

【第1部】基調講演

演 題 「落語で学ぼう ゴミ問題と地球温暖化」

講 師 桂 三段 氏

内 容 暮らしと地球温暖化の関係を学び、年々深刻化する地球温暖化の防止に向けて、家庭や地域で取り組まなければならないことを認識する。

【第2部】活動報告&学習成果発表会

内 容 石狩川マイクロプラスチックの調査

天売島の海鳥の暮らしと海岸に流れ着く漂流ゴミについて



(5) 滝川市立開西中学校での地球温暖化防止講演会&ワークショップ

主 催 滝川市

共 催 滝川市教育委員会

講 師 公益財団法人北海道環境財団

開 催 日 令和2年2月12日

場 所 滝川市立開西中学校
体育館

参加人数 50 名

内 容 「地球温暖化の現状と防止策」をテーマとした講演・ワークショップ



(6) 市内全保育所と連携した COOL CHOICE でエコドライブ&クールビズ・ウォームビズ啓発展示

主 催：滝川市

共 催：空知自動車学校

開 催 日：夏／令和元年6月25日～10月31日
冬／令和元年11月1日～令和2年2月29日

場 所：滝川市立図書館

内 容：滝川市内全保育所の協力を得て「COOL CHOICE でエコドライブ」のぬり絵展示を行いました。また、展示に合わせてクールビズ、ウォームビズの啓発展示も同時開催しました。

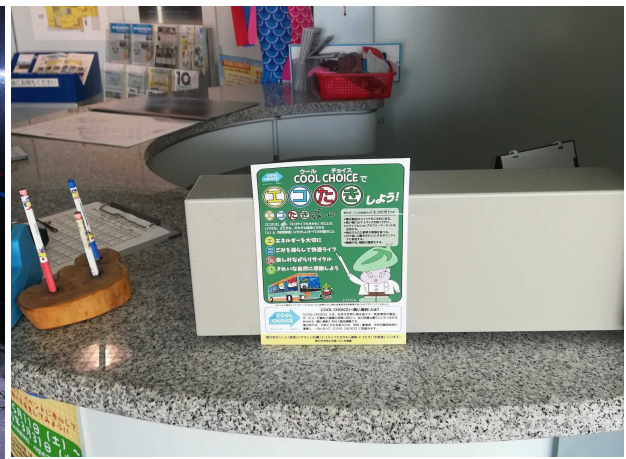


(7) 「COOL CHOICE でエコたき」ステッカー掲示

主 催 滝川市

掲示期間 令和元年11月1日～令和2年2月29日

内 容 昨年度実施の「地球温暖化防止」をテーマにしたポスターコンテストの優秀作品をステッカーに加工し、市内を走るバス20台、タクシー75台、公用車5台、市内公共施設30か所に掲示し、地球温暖化防止の啓発活動を行った。



たきかわエコネット登録団体：8団体(令和2年3月末現在)

団体名	活動内容	団体名	活動内容
「緑とエコ」サポーターネット	当会は平成13年6月10日に行われた「石狩川ルネサンスの森」の創設時に、森林の持つ多様な機能の育成と緑によるゆとりと潤いのある環境の整備を図り、循環型社会づくりを進めることを目的として設立しました。 これまでの主な活動は、毎年行われる「石狩川ルネサンスの森」整備事業であり、その他には、石狩川の水源の1つである南富良野町にあるかなやま湖で「水源の森創造交流会」などを行っています。	日本野鳥の会滝川支部	滝川市を中心に空知管内でバードウォッチングを通して自然保護活動を行っています。石狩川と空知川の2大河川が流れる空知には広大な河川敷地と河畔林があり、草原や森林を好む鳥たちの重要な繁殖地となっています。 また、河川改修でできた三日月湖も多く残っていて、渡り鳥たちが旅の途中で羽を休め繁殖地や越冬地に向かいます。そんな野鳥たちの観察記録を蓄積し、鳥たちの生息環境の保全活動をしています。
江部乙丘陵地のファンクラブ	江部乙丘陵地は農村部に珍しいほどの豊かな自然を生み育ててきた土地です。 私たちは、この地に多くある魅力を道内はもとより日本全国へ発信するため、フットパスや自然観察会を軸とした地域密着型の環境への取組を行っています。 私たちの取組が、地域の活性化に少しでも役立てば幸いです。	たきかわ環境フォーラム	市民グループ「たきかわ環境フォーラム」は、1つのキーワードを掲げて活動しています。それは「エコアップ！」。 私たちが暮らす地域の環境を見つめ直しながら、少しずつ「自然の豊かさ」を高めていこう、という願いを込めました。実現のために情報を集めたり、その情報を再発信したりする役目も果たせたらと思っています。
滝川消費者協会	本会は環境保全への取組はもちろんのこと、消費生活の安定向上及び消費の合理化普及を目指すため、各種イベントを開催し、会員相互の親睦及び一般消費者とのふれあいを目的に事業を行っています。	滝川おもしろ食育塾	滝川市内の未成年者の農業体験を主軸とする食育教育年々、ゴミの量は減ってきており、活動の成果を実感している。の企画、現場活動を行っています。 中空知で生まれ育った子供たちが、命をつなぐ食と人との関わりを五感で感じることや、故郷の農村に誇りを持っていただくことなど、その後に良い影響を受けてもらうことを目標に活動しています。
手紬染織工房たきかわ	滝川で飼育されている羊の毛を主に使い、身近にある草木で自然の色を染め、糸を作って織物や編み物など、日常的に使用できる作品を作り、販売することで羊毛の暖かさや、自然の色の素晴らしさを知ってもらうことを目的として活動しています。	まち・川づくりサポートセンター	石狩川再生の森整備、ゴミ拾い活動、水防水難訓練支援（レスキュー訓練、舟漕ぎ大会）、たきかわ子ども水辺協議会の活動、指導者の育成（RAC、CONE、プロジェクトWET・ワイルド・ラーニングツリーなど）

環境都市宣言

わたしたちのまち滝川は、石狩川と空知川に育まれた豊かな大地と自然の恵みを受けて、健康で文化的なまちとして発展してきました。

しかし、今、人々の営みは、豊かな自然や調和のとれた地球環境に大きな影響を与えています。

21 世紀を迎え、わたしたちは、地域の優れた環境を再生し、美しい地球を未来に引き継ぐため、環境にやさしいまちづくりに努めることを誓います。

平成 15 年 1 月 1 日

滝 川 市



第2次滝川市環境基本計画・地域行動計画

— 年次報告書 —

(令和元年度版)

令和2年8月31日作成

〒073-8686

北海道滝川市大町1丁目2番15号

滝川市 市民生活部くらし支援課（環境衛生係）

電 話 0125-28-8013（直通）

F A X 0125-24-0154

e-mail kurasi@city.takikawa.hokkaido.lg.jp